

各位

党派を超えて国家的課題を追求する
公益財団法人 協和協会
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
交通部会長 吉 田 英 法
専務理事兼事務局長 清原 淳平

交通部会のお知らせ (第237回)

日時 平成28年3月30日(水) 午後1時半～3時半

場所 参議院議員会館 1階 102会議室

千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車5分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「102会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題

1、最近の交通事故情勢について思う

挨拶 吉田英法部会長(元警察庁関東管区警察局長)

2、第10次交通安全基本計画

3、平成27年中の交通死亡事故の特徴

4、交通事故統計(2月中及び3月29日まで)

解説 警察庁交通企画課中嶋正浩課長補佐(警視)

報 告

去る2月25日開催の第236回交通部会は、吉田英法部会長が議長を務め行われました。まず、吉田部会長より、「最近の交通事故情勢について思う」と題して開会挨拶がありました。今回は軽井沢バス事故が議題の一つとなっているが、事故原因の一つに、当該運転手は大型バスの経験が浅かったことが原因だという声を聞いた。難関の二種免許を取得したのだから、職業運転手は全員優れた運転技能を持っていると思われがちだが、そこに誤解があった。バス事業者の監督責任も含めて、この事故から何を教訓とするのかを考えて行きたい。

次に、警察庁交通局交通企画課中嶋正浩課長補佐(警視)より、「軽井沢バス事故の発生」について解説がありました。去る

1月15日、長野県北佐久郡軽井沢町の国道において、渋谷区内から長野県内スキー場行き的大型貸切バスが対向車線にはみ出し、路外に逸脱して崖下に転落。15名（内乗員2名）が死亡、26名が負傷した。長野県警にて事故の全容を解明中だが、現在132m手前からタイヤ痕があり、事故直前のスピードは96kmであったこと、バスのブレーキ故障が事故原因ではないこと、運転手の司法解剖の結果飲酒・薬・病気が原因ではないことがわかっている。警察庁としては、死者の3分の2がシートベルトを着用していなかったことから、バス事業者団体に対し、座席の前の網に啓発リーフレットを入れる、シートベルト着用確認車内放送の徹底、運転手の目視による確認の励行などを申し入れた。

次に、「平成27年中の暴走族の動向」について解説がありました。平成27年中の暴走族は、227グループ、構成員約6千7名、走行回数約2千8百件、検挙人員約1万4千6百人と、いずれも昨年より減少した。これには、15～24歳の二輪免許保有数が10年前の約半数まで減少していることが大きな要因の一つである。一方、中年層や元構成員による旧車会員が、構成員、検挙数とも昨年より増加している。今後の対策として、動画投稿サイトで活動をアピールする集団が増えていることから、それを捜査に活用し、検挙に取り組むとともに、学校と連携した暴走族加入阻止対策など、根絶に向けた対策を推進する。

次に、「交通事故統計」について説明がありました。2月24日（部会前日）までの事故死者数は、577人で前年比27人の減、うち高齢者は325人で同18人の減となっている。

解説の後、委員一同にて盛んな意見交換がありました。○バスのブレーキは特別な技能を要するため、ギアを入れ換えるタイミングやスピードが出過ぎてしまった場合に事故が起きやすくなる。○自転車の利用について企業に意識調査を行ったところ、交通安全教育を行っている企業が35%、整備を行っている企業は20%、任意保険を義務付けている企業は10%程度であることが分かった。

3月30日（水）の交通部会（参）に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____ 電話 _____

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

HP <http://www.jidaisassin.jp>

Eメール kiyohara@jidaisassin.jp